

澄川地区連合会

R1年度～

取組みの方針

住民の自主的な防災意識の向上を図り、 被害を最小限にとどめる取り組みを行う

地震、風水害、火災等の災害が発生した時の被害を最小限にとどめることを目的に、以下の取り組みを実践していく。

・校区内町内会検討会議

地形的条件から被害想定が異なる3小学校区の防災活動に資するため、関係町内会による体制(校区内町内会検討会議)を構築する。

・連合会の支援体制

連合会は自ら地区全体の防災に関する事業活動をおこなうほか、前記の検討会議の活動に対して予算の範囲内で支援を行う。

1) 地区の概要

精進川と望月寒川に挟まれた南北に長い地形で、東に丘陵部を有し傾斜地の多い地勢である。平地部の土質は砂れき質・泥炭・火山灰と様々であり、丘陵部は火山灰地が多く、場所により硬軟あり風化の度合いなどによって異なる。

建物について、地下鉄駅周辺の旧市街地は、老朽化した木造建物と近年建替えられた中層のマンションが混在しており、地下鉄高架が市街地を二分するという状況にある。

2) 災害リスクと課題

一部を除き小規模の開発が散漫に行われたことから、生活道路は狭隘かつ複雑なものが多く、丘陵部では傾斜も加わり厳しい状態もある。

また、遅れて開発された丘陵部の中には、道路が狭隘で、過密な状態で崖地に面した住宅街もある。

昭和58年の集中豪雨では、幸い家屋流出などの被害は免れたが、丘陵地では一部の土砂が流出し、幹線の水源地通をはじめ数箇所で交通が遮断された。地区内の河川である精進川が危険水位を超えたのは、その時を含め何度か記録されているが、現在までに床下、床上浸水の被害には至っていない。

3) 取組の概要

地区防災計画策定に向けて「澄川地区防災計画検討会議」を設置した。

計画には地形的条件が異なる3小学校区ごとに地震と水害のマップを掲載し、想定される被害について整理した。

4) 地区防災計画の取組状況

年月	項目	内 容
R 1. 10	南区地域防災研修	演題：避難所運営の知恵袋
R 1. 12	防災部長会議	防災部行事の総括と来年度の防災行事について
R 1. 11	R 1 第1回WS	演題：地区防災計画の作り方 「災害物語」「避難物語」「希望物語」を作る
R 2. 1	R 1 第2回WS	想定される危険個所及び、考えられる対策について
R 2. 2	R 1 第3回WS	発災前、発災後の住民、町内会、連合会の役割などについて
R 5. 9	会議	防災ワークショップについて
R 5. 11	R 5 第1回WS	図上防災訓練（地震）の実施
R 6. 2	R 5 第2回WS	地区防災計画に関する意見交換

5) 取組みの様子



放水体験



検討会議



R 5 第1回 WS



R 5 第2回 WS

6) 地区防災計画の概要

澄川地区連合会の計画の項目と、計画内容の一部を以下に示す。

計画の構成

- ・ 計画の対象地区(範囲)
- ・ 基本方針
- ・ 地区の特性
- ・ 防災活動の内容(目標)
- ・ 今後の検討事項
- ・ (参考) 3 校区の被害想定等

3 地区の特性

澄川地区は、精進川と望月寒川に挟まれた南北に長い地形で、東に丘陵部を有し傾斜地の多い地勢である。平地部の土質は砂利質・泥炭・火山灰と様々であり、丘陵部は火山灰地が多く、場所により侵蝕あるいは風化の産合いで異なる。一部を除き小規模の開発が散発に行われたことから、生活道路は狭隘かつ複雑なものが多く、丘陵部では傾斜も加わり厳しい状況もある。

建物について、地下鉄駅周辺の旧市街地は、老朽化した木造建物と近年建設された中層のマンションが混在しており、地下鉄高架が市街地を二分するという状況にある。

また、遅れて開発された丘陵部の中には、道路が狭隘で、過度な状態で崖地に面した住宅街もある。

昭和58年の集中豪雨では、幸い家庭流出などの被害は免れたが、丘陵地では一部の土砂が流出し、幹線の水道地通をはじめ数箇所で交通が遮断された。地区内の河川である精進川が危険水位を超えたのは、その時を含め何度も記録されているが、現在までに床下、床上浸水の被害には至っていない。

※ 5 頁以降に「3 校区の被害想定等」を掲載。

3

①地区の特性

4 防災活動の内容(目標)

- (1) 3 小学校区の「校区内町内会検討会議」の設立
- (2) 防災意識向上のため「安心・安全マップ」の更新
- (3) 災害時を想定した避難所運営研修の開催・運営マニュアル作成
- (4) 防災意識向上・啓発のため防災講演(地区全体・校区毎)の開催
- (5) 「校区内町内会検討会議」に対する連合会の支援体制の確立

5 今後の検討事項

- (1) 「校区内町内会検討会議」の活動の継続
- (2) 「安心・安全マップ」等防災意識向上のための各種資料の定期的な見直し
- (3) 避難所運営研修に係る運営マニュアルの定期的検証、見直し
- (4) 「校区内町内会検討会議」に対する連合会の支援体制の継続

4

②防災活動の内容(目標)、今後の検討事項

6 (参考) 3 校区の被害想定等

(1) 澄川西小学校区

- ① 所属する町内会 澄川第1町内会、澄川第2町内会、
澄川第4町内会、澄川第7町内会

② 想定される災害

■ 地震防災マップ



ア 地震

地震防災マップによると、澄川西小学校区の大部分で震度6強から6弱の揺れが想定され、第7町内会の一部では震度7の揺れが想定されている。



5

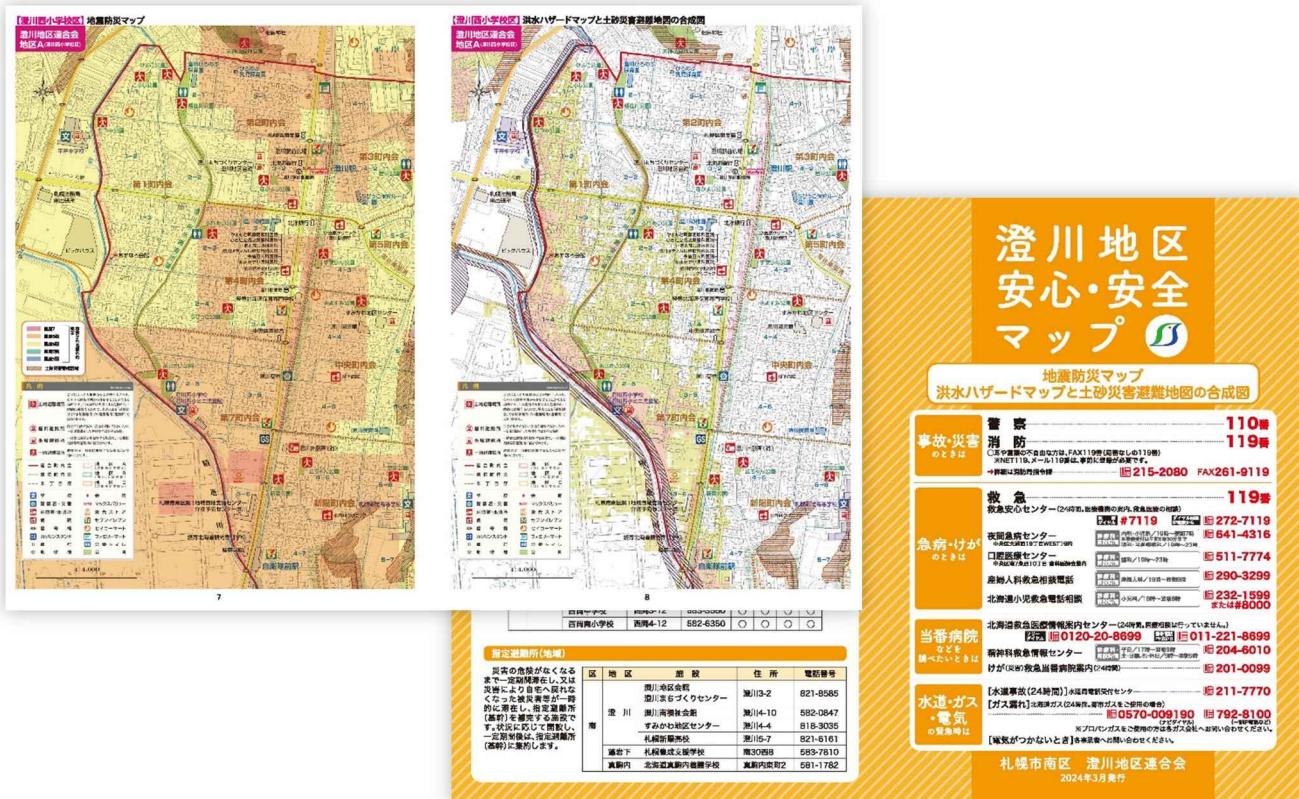
震度6強から震度7までの大部分に広がる
避震路には0.5m以上30m未満の浸水
がある。澄川西小学校は、浸水想定区域内にあり、洪水、土砂災害時には、
避難所が閉鎖されない。

ウ 土砂災害

澄川西小学校には土砂災害警戒区域の指定はない。

6

③ 3 校区の被害想定等



④澄川地区安心・安全マップ

計画の説明

①地区の特性

澄川地区における環境特性と社会特性を説明し、災害時の課題となり得る事柄を整理した。

②防災活動の内容(目標)、今後の検討事項

校区内町内会検討会議の活動と「安心・安全マップ」等各種資料の見直し、避難所運営に関する事項、連合会の支援体制についての検討事項を掲載した。

③校区の被害想定等

小学校区ごとに震度分布や浸水想定がわかるマップを掲載した。また、特に注意が必要とみられる地域について補足した。

④澄川地区安心・安全マップ

澄川地区の防災マップである「安心・安全マップ」の内容を更新した。従来のマップに震度分布や浸水想定のハザードマップを重ねた。また、建物情報を見直した。